

第4章

基本理念と基本方針

1. 基本理念
2. 基本方針の柱
3. 機能別の基本方針
4. 施策を展開する上での重要なポイント

第4章 基本理念と基本方針

1. 基本理念

本計画を推進していく上での基本理念を示します。

「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」の継承

本市における南アルプスとは…

森・里・川・海を通じ、駿河湾へとつながる自然環境の源であり、自然の恵みを楽しむ育まれた地域固有の伝統文化や経済活動の源です。

自然・人・文化・経済の源である南アルプスをいつまでも守り受け継ぐため、「自然環境の保全」を第一に考えるとともに、これを支える人や地域を豊かにし、人が関わりながら自然を守り、地域を守り、発展させていきます。

○南アルプスの自然環境と多様な文化のつながりを共有財産として位置づけ、地域間交流の拡大を図るとともに、優れた自然環境の持続的かつ永続的な保全管理と利活用に連携して取り組むことによって、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを行います。

○清らかな水に育まれた生物と文化の多様性を、我々の大いなる誇りとし、人と文化の交流をさらに促進し、その価値を人類共有の財産へと高める取組を推進します。

2. 基本方針の柱

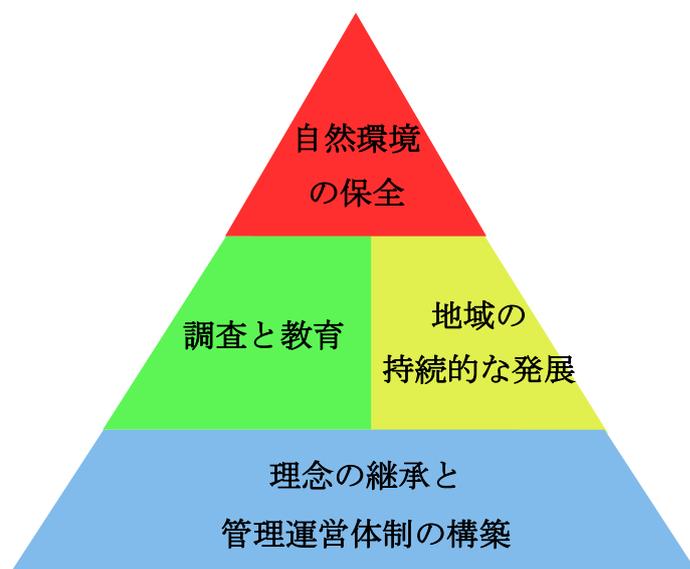


図 27 基本方針の柱

3. 機能別の基本方針

基本理念を達成するための基本方針を示します。

「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」の継承

自然・人・文化・経済の源である南アルプスをいつまでも守り受け継ぐため、「自然環境の保全」を第一に考えるとともに、これを支える人や地域を豊かにし、人が関わりながら自然を守り、地域を守り、発展させていきます。

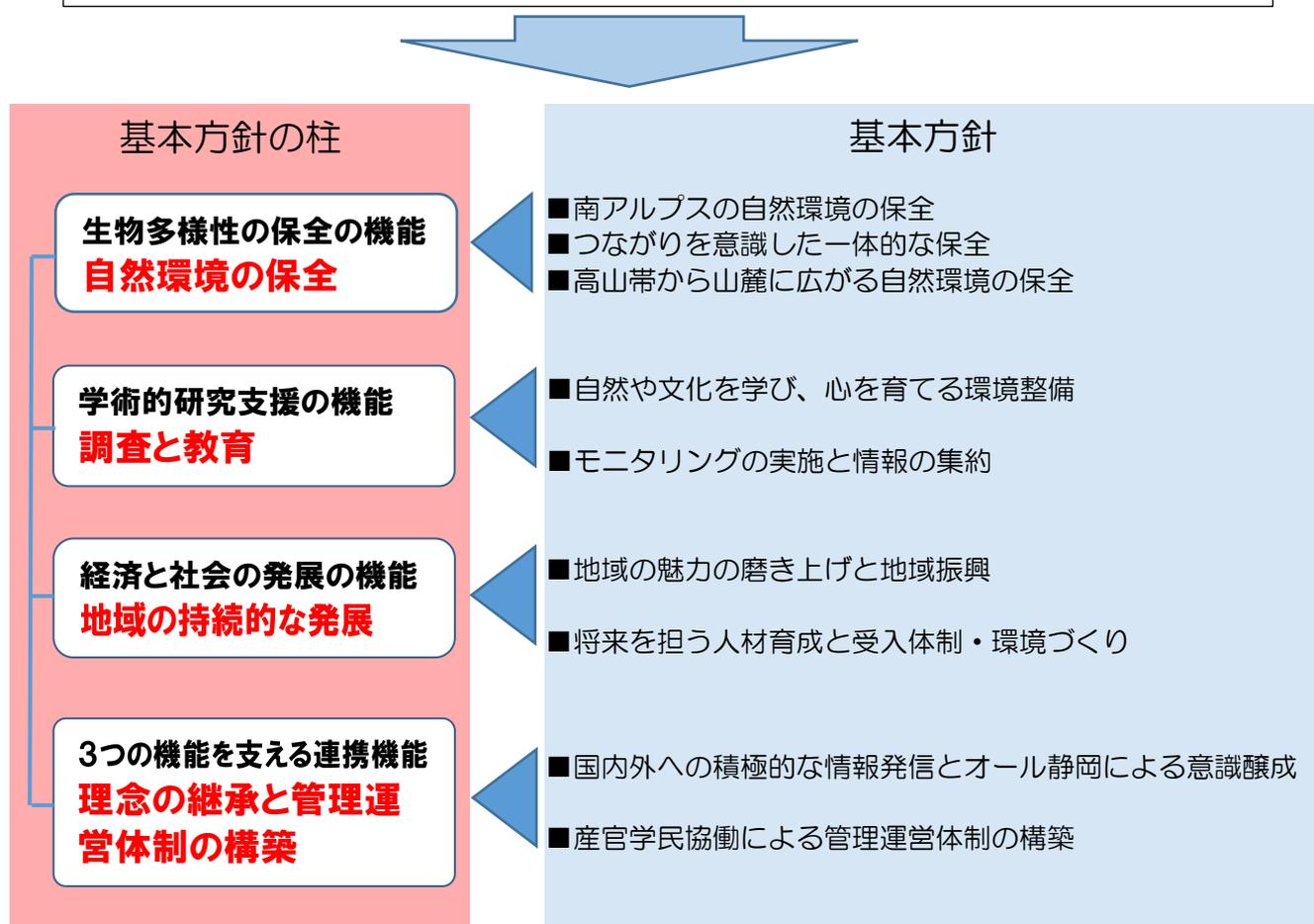


図 28 基本方針

4. 施策を展開する上での重要なポイント

基本方針に基づく施策を展開する上で、“重要なポイント”を示します。

- モニタリングの実施による適切な対応
- 自然・文化・人の交流拡大による地域活性化
- 川根本町との交流・連携促進
- 南アルプス全体の施策展開
- エリアの“つながり”を意識した施策展開
- 井川少年自然の家を中心とした教育活動
- オンリーワン・ナンバーワンの魅力創出

○モニタリングの実施による適切な対応

南アルプスユネスコエコパークの価値を将来へ継承するため、自然環境や生活環境、社会状況等の様々な変化を把握し、総合的な判断により、各種施策における適切な対応を検討・実施することが重要です。

○自然・文化・人の交流拡大による地域活性化

地域の持続的な発展に向けては、南アルプス山麓への定住促進や特産品の開発・販路開拓、優れた自然環境や文化を活かした産業の育成等により、自然・文化・人の交流を拡大し、地域の活性化に結びつけていくことが重要です。

また、自然・文化・人の交流を、市域はもとより、南アルプス全域に広げることで、南アルプスユネスコエコパーク全体の持続的な発展を目指すことが重要です。

○川根本町との交流・連携促進

南アルプスユネスコエコパークの永続的な管理運営を担っていくためには、10市町村相互の連携と協力が不可欠となります。特に川根本町については、大井川流域で繋がる自然・文化・人の交流をさらに発展させるため、エコツーリズムの推進、自然環境や文化の保全・継承等において、更なる連携を図ることが重要です。

○南アルプス全体の施策展開

南アルプスユネスコエコパークを10市町村が連携して管理していくためには、全体で掲げる「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」の理念や、一貫して取り組むべき課題や施策等を踏まえるとともに、各地域の取組の一つひとつが南アルプスユネスコエコパーク全体の取組につながることを意識し、各種施策を展開していくことが重要です。

○エリアの“つながり”を意識した施策展開

南アルプスユネスコエコパークを構成する3つのエリア（核心地域、緩衝地域、移行地域）は、相互に干渉しあい、南アルプスユネスコエコパークの有する価値を創造し、機能（生物多様性の保全、学術的研究支援、経済と社会の発展）を高めていくものであるため、各エリアのつながりを意識した施策を展開することが重要です。

○井川少年自然の家を中心とした教育活動

南アルプスユネスコエコパークの教育拠点施設となる「井川少年自然の家」は、これまでも青少年教育施設として、自然体験や環境教育などの取組が行われています。この取組を発展させながら、ユネスコエコパークの理念の普及を図るとともに、登録地域内の他施設とも連携を図りながら、環境のために自ら行動する「人」、教育を担うリーダーを育てることが重要です。

○オンリーワン・ナンバーワンの魅力創出

地域の持続的な発展には、“そこにしかない最高のモノ（自然、食、体験、人）”の存在が重要です。地域資源を守り、活かしながら、そこにしかない地域の宝として、その価値を磨きあげていくことが重要です。

そのためには、故郷を誇りに思う心を育くむ取組も重要です。

